

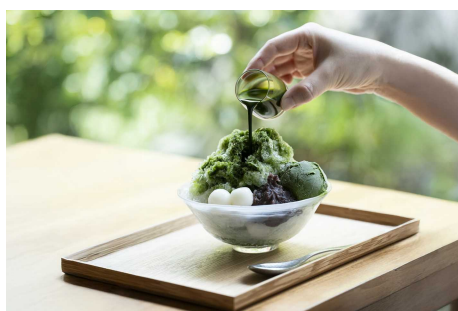
都心からすぐのひんやり贅沢旅！ ～静岡の夏の風物詩「茶氷プロジェクト2026」で極上の涼を味わう～

猛暑が続く夏、都会の喧騒を離れて「ひんやり甘い贅沢」を楽しみたい首都圏の皆さまにおすすしたいのが、お茶どころ・静岡で絶大な人気を誇る夏のイベント「茶氷（ちゃごおり）プロジェクト2026」です。

「茶氷」とは？静岡茶を使った贅沢かき氷

「茶氷」とは、日本三大銘茶と名高い静岡茶の上質な味わいを贅沢に活かした特製かき氷のこと。静岡県中部エリアを中心に、地元茶農家や老舗茶商、話題のおしゃれカフェなどが趣向を凝らした、オリジナリティあふれる一品を提供しています。

9年目を迎えた2026年は、新たに6店舗が仲間入りし県内65店舗が参加！抹茶や煎茶の濃厚なシロップはもちろん、和紅茶や玉露、季節のフルーツと合わせたハイブリッドな味わいまで、お茶のプロだからこそ表現できる奥深い世界が広がっています。どこを切り取ってもフォトジェニックなビジュアルは、SNS映えも抜群です。



2026年はさらに巡りやすく進化！

2026年の「茶氷プロジェクト」は、ロゴやキービジュアル、公式サイトを全面リニューアル！

一新された公式サイト (<https://chagori.com/>) では、エリアや提供日ごとに店舗を簡単に絞り込める検索機能が充実しており、旅の計画が立てやすくなりました。

さらに、街歩きのお供にぴったりなパンフレット「茶氷帖」の配布や、茶氷を食べてアンケートに答えるとAmazonギフトカードが当たるうれしいキャンペーンも実施中。

参加店舗に掲げられたオリジナルの「茶氷旗」を目印に、食べ歩きが楽しめます。



新幹線でアクセス抜群！日帰りや週末プチ旅行に最適

東京駅から静岡駅までは、東海道新幹線「ひかり」で約1時間。新幹線を降りれば、そこはもう「茶氷」の街です。駅周辺のカフェや歴史ある日本茶専門店はもちろん、少し足を伸ばして茶畑が広がる開放的なエリアや駿河湾を望む絶景スポットへ立ち寄るのもおすすめ。

「茶氷プロジェクト2026」の開催期間は、2026年9月30日(水)まで（※店舗により提供期間が異なります）。

この夏は新幹線に飛び乗って、静寂な茶の香りと冷たい氷が織りなす「究極の涼」を体験しに、静岡へ出かけてみませんか？

↓ イベント概要はこちら ↓



【静岡県SDGsビジネスアワード2026募集開始！】 - 環境課題を解決する革新的ビジネスを共に創る6年目の挑戦 -

静岡県は、県内の金融機関や経済団体等と連携し、未来をつくる環境ビジネスを表彰する「静岡県SDGsビジネスアワード2026」を開催しており、今年度で6回目となります。

ついでに、環境ビジネスに取り組んでいる、もしくはこれから取り組みたい法人を対象とし、環境課題の解決に貢献する事業アイデアを幅広く募集します。採択団体に対しては事業化に向けたメンタリング(伴走支援)を行い、最終的な事業アイデアを静岡県知事賞、優秀賞、奨励賞として表彰します。皆様の御応募お待ちしております！

■募集概要

- (1) 募集期間 令和8年8月1日(土)～9月30日(水)
- (2) 募集テーマ 静岡県内における環境課題の解決に貢献する事業アイデア
- (3) 応募方法 特設HP掲載の応募用紙に記入し、メール送付
- (4) 採択・表彰
7団体程度を採択し、事業アイデアのブラッシュアップを実施後表彰
(静岡県知事賞 1件、優秀賞 3件程度、奨励賞 3件程度)



詳細はこちら▲



詳細はこちら▲



■応募説明会

以下のとおり応募説明会(応募方法の説明等)を開催します。

- (1) 日 時 令和8年8月20日(木)午後3時から午後4時まで(オンライン)
- (2) 申込方法 特設HPの申し込みフォームに入力し、送信

静岡県アンテナコナ-「おいしず」のオススメ



JR秋葉原駅徒歩2分
CHABARA内
「日本百貨店
しよくひんかん」
千代田区神田練堀町
8-2
(JR高架下)

おいしず
楽天市場店



■パリパリ食感がおすすめ！

今月のオススメ商品は、頂(いただき)しずおか食セレクション)に2020年に認定された「しらすチップス」(有限会社山精水産)です。

静岡県近海の新鮮な「しらす」100%を使用したたたみいわし。開封後はそのまま食べられ、香ばしい匂いとパリパリした食感とともに素材の味そのものを味わえることが特徴です。

編集後記

静岡県東京事務所で
の勤務が2年目に入り
ました。

総務省、外務省、法
務省をはじめとする国
の関係機関や各国大
使館との連絡調整が
主な職務です。

県と関係省庁を結ぶ
橋渡し役を務める中で、
静岡県を客観的に見つめ直す機会に恵
まれています。

県内各地の強みと可能性を把握しながら、同時に省庁が期待する地域の役割
を理解することで、多角的な視点が養わ
れました。

この仕事を通じて、県の発展に貢献で
きるという実感と責任感を持ち、日々新
しいことを学んでいます。

週末は気分転換にカフェめぐりを楽し
むなど、メリハリのある生活を送ってい
ます。



主査
和田 朋子